アキノイサムさんが亡くなって３年
イサムギャラリーがプレオープン！

去年の秋、11月半ばにアキノイサムさんの作品が見られるギャラリーを自宅裏の蔵をリフォームしてプレオープンしたと聞いた。その時には都合が悪かったので、そのうち本格オープンするだろうと思って行かなかったが、絵をいったん片付けて作業をするというのであわてて先月初めころ見に行き、ギャラリーオープンまでの苦労や八重山の小浜島に住んでいた頃のお話を聞かせてもらった。兵庫県の一番西にある上郡（かみごおり）町のはずれにある静かな集落にそのギャラリーはある。（あ）

イサムギャラリーをオープンした
アキノイサムさんの奥さんと娘さん
秋野 和子 さん
かぬか さん

和子●　ぎりぎりまで照明がついてなかったし、ちゃんと出来るかわからずプレオープンということにしたんだけど‥‥。まず近場の人に何をやっているのか見てもらいたいと思って、チラシをこの集落の皆のポストに入れて、あとは近県の人に電話、Facebook と地元の上郡民報に出してもらって。

　びっくりするくらい人が来てくれた。どうなってるんだろうというくらい。見た人が次々と声をかけてくれたみたい。じっくり長いこと見てくれる人が多くて、それがいちばんうれしかった。最初の２日で私はばてたけど、子どもたちがよく動いてくれたヨ。

―― 自分たちで手作りしたわけですね。

和子●　ここは床張りからはじめたから、荷物を移動させて移動させて、母屋に運んだり。

―― 女だけでやるのは大変ですね。

和子●　いや、そうでもないの（笑）。階段つけるときは息子が手伝いに来てくれたし、かぬかの友達もいっしょにやってくれたり、このライトをつけるのも、宮大工の棟梁にお世話になったし。電気工事は不安だから。

―― 周りにそういうネットワークというか協力者がいるんですね。この蔵の広さはどれくらい？

和子●　奥まで入れて 10 坪ある。奥に物を置けるスペースがちょっとあって。

―― プレオープンまでどれくらいかかったんですか？

かぬか●　今年でイサムが亡くなって３年目なのね。11 月 23 日に亡くなって、その次の年の秋くらいに始めたから、２年はたってるね。９月ころに製材に行ったような気がする。床板の。

―― その木はどうしたの？

かぬか●　宮大工さんのところでもらった。幅がばらばらでしょ？　そういうのってあんまり使えないんだって。

和子●　檜だったらちゃんとした床材があるから使うかって言われたけど、檜は冷たいんだよね。杉は暖かいんだよ。それで私が杉がいいって言ったら製材所に来いって。

かぬか●　だからこれ隙間だらけなの（笑）。これでもがんばって隙間を埋めたんだけどさ。

―― １階も２階も全部やったんですか？

かぬか●　２階を先にやった。向こう半分の半分、つまり 1/4 を先にやって、荷物を最初ぜんぶこっちに動かして、そして終わったら荷物をまた移してこっちをやるというふうに、荷物をくるくるくるくる回しながらやった。全部とって一気にはがす方が楽なんだよね。

和子●　やるのは楽しかった。木を触ってるのは面白いし、私たちは楽しいんだけど、イサムはみんなに見てほしいだろうなと思いだして。

　それと、上郡も赤穂も産業廃棄物の処分場候補地になっているの。いま田舎は全部狙われてるから。それで署名運動とかやってるんだけど、あと私ができることってイサムの絵を見てもらうのがいいかなーと思って。それもあって、早くやるぞ～と急いだ。

次頁に続く

←２階建ての蔵をリフォームしたギャラリー。壁板も火であぶって貼り付けたそうだ。

―― 小浜島の話も聞きたいんですが、かぬかはそこで生まれたんでしょ？

かぬか●　そう、そこで生まれたの。私はそこで 15 まで、中学卒業までいた。島には中学までしかなかったから、どっちにしろ全員、中学卒業したら島を出ないといけない。だから島の子は早く大人になるよ。だって親元を離れないといけないから。

和子●　小さい時から労働力でもあるよね。まず一輪車でゴミを捨てに行ったり。

かぬか●　小浜の学校はよかったよ。中学生の時は生徒会費とかなしで、山羊を飼ってた。当番があって４班にわかれていて、毎日夕方になると草刈りに行って山羊にエサをあげて。それで生徒会費が必要になったら山羊を島の人に売るの。お祝い事があったら山羊を食べるから。

和子●　野菜もみんな学年ごとに教室の外に花壇があって、野菜をつくって。海に行っては海の幸を採ってきて。もずく採ったりあおさ採ったり。それで給食用に使ってた。それと米づくりも。給食は島のオバーが作っていて、昼前にはいいにおいがしだす。おいしかったヨ。サトウキビ刈りも小学生から中学生からみんなでやるのね。スポーツ大会なんかあると、島で優勝したら石垣島に行かないといけないし、石垣でも優勝したら沖縄本島に行かないといけない。そしたら親はお金がないから払えないよって言うわけよ。で、そういうお金をつくる。

かぬか●　そう、キビ刈りに行ってお金をつくったり、月に１回だか２回だか、みんなでリヤカーでまわって、一升瓶と空き缶と集めて、それを袋に詰めて、石垣の泡盛業者に売る。で、そのお金で遊具を買ったり。

―― 自給自足みたいね。でもキビ刈りなんてけっこう重労働でしょう。

かぬか●　すごい重労働だよ。（笑）まあでも、できる範囲でやるから。小学校の低学年は遊んでるだけだから。それでもちょっとキビを 2，3 本運ばせたり、そんなかんじ。中学生は本気で働かせる。

←ギャラリー内部とかぬかさん

―― 小浜島はお米もできるの？

かぬか●　米は小学校低学年のころかな。高学年になるとイモの方が多かった。今はあんまり作ってないかも。小浜は八重山の中でも水がある島だよ。小さい 99mの山があってね。岡でしょって言われるんだけど。（笑）それなのに西表島から水をひいてるんだよね。海底にパイプ通して。

―― イサムさんは漁師をやってたんだ？

和子●　そう、漁をして現金を得る。海に潜ってタコとか貝とか採って。

―― もともと何で小浜に行くことになったんですか？

和子●　インドから京都に戻った時、私は妊娠していて、住むところを探したの。空気がおいしくて、海の幸があって、畑が耕せて、お金がかからないで住めるところを探してたけどなくて。で、東寺の市に行ったら、偶然アメリカやカナダの友達グループと会って、そこで家を探してると言ったらその中のひとりが西表島に住んでいてあるぞと言って。

その前の年にすごい台風が来て、石垣島の風速計が 70 何mまで記録してぶっ飛んで、それ以上記録できなかったという。その時ボブたちが住んでた西表島の星立という集落では、男達はみんな石垣島に行ってて、女たちだけが残ってたのね。すごい風で戸を飛ばされたらとずーっと押さえてたら、気がついたら戸だけ持っていて、家は飛んで行ってたという（笑）。うわー、それは面白いところだっていうんで、そのあとすぐ行くことにした。

それまでインドに住んでたからね。そんなに違和感はなかった。それで最初は家があるって言われてた小浜島のお百姓さんたちの部落に住んでたけど、米作りは水の関係とかあるから厳しいじゃない。海人（うみんちゅう）というのは小さなサバニに乗ってるから、海に出たらみんな大将だよ。今は海人商会やってるヒデキが海人やってて教えてくれて、イサムは海の方が楽だなと思って、そっち（くばさき＝細崎）に移って、家を建てた。

―― 家は自分で建てたの？

かぬか●　うん、イサムが、みんなで建てた。電信柱とかで。

―― 地図をみるとほんとに細崎は端っこにありますね。津波が来たらやばそう。今までは大丈夫だったのかな。

かぬか●　こないだ、４年前くらいが細崎の 100 周年だったの。で、それの前に大津波があったらしい。明和の大津波というのがあって。小浜の本部落は、それまでは海の近くに住んでたんだけど、八重山全体で 9000 人近くの人が死んだらしい。そのあとにみんな山の近くに移り住んだ。で、そのあとに細崎に海人が来てまた住み着いた。教えてあげなよって思うけど（笑）、でもまあ、あれから津波は来てません。沖縄の人だから、しょうがないさーで終わるんだよ。

和子●　16 年いたんだけど、でも面白いところだったよ。すごい濃厚な時間。野菜をつくって鶏も飼って、海の物はあるし。

和子●　細崎は内地から移り住んだ人もけっこういて、海人と内地の人。だからけっこう楽々だった。住み始めたころは乗用車が１台だけ。あとは民宿の車があるくらいで。だけどだんだん車が増えて、一家に一台持つようになって、どんどん空気が薄くなっていったね。

島にいる間、家族だけでいたことって 365 日のうち何日もなかった。知らない人が次々来て、何日か泊まって朝帰る。やれやれと思っていたら、夕方には縁側に誰かが来てリュックが置いてある。そんなかんじだったね。なんだろうね。口コミだろうけど不思議だね。

―― 小浜島から出たのはなんで？

和子●　私の父が亡くなって、母が一人になったので。それが福山なの。それとイサムも海だけで食べるのは厳しいし。絵を描いてたけど、絵でも向こうでは厳しいし。それの両方があったから。でも島の連中は私たちがもうずっとそこにいると思ってたから、おばあたちにもに怒られたョ。

―― 大きい家族みたいなものですね。

和子●　そうそう、もう赤ちゃんの時から知ってるから。共同体だよね。　●